



第 59 号

虹のはし

神戸市立医療センター西市民病院広報紙

ホームページアドレス <http://nishi.kcho.jp>

発行者：地方独立行政法人神戸市民病院機構
神戸市立医療センター西市民病院
企画・編集：広報・ホームページ検討委員会
発行日：2023(令和5)年12月20日
〒653-0013 神戸市長田区一番町2丁目4番地
TEL 078-576-5251

病院の基本理念と基本方針

■基本理念

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心こもった医療を提供します。

(平成19年6月1日改訂)

■基本方針

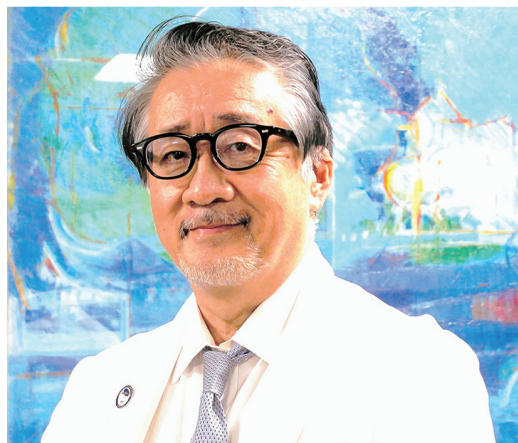
1. 患者さんの人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
2. 医療安全体制の充実を図り、患者さん及び職員の安全確保に努めます。
3. 救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
4. 高度・専門医療を充実させ、市民病院として地域医療に貢献します。
5. 地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
6. 医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
7. 職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

(平成30年12月3日改訂)

いまの西市民病院のご案内

院長 中村 一郎

令和5年4月より病院長に就任し病院管理者を務めさせていただきます中村一郎と申します。もういくつ寝るとお正月♪という時期となり、本格的な寒さが到来しました。今秋よりインフルエンザが大流行し、また新型コロナ患者さんも徐々に増えていきますので、どうかご注意ください。今回の虹のはしでは、西市民病院の誇れるところ、『売り、強み』を、手前みそながら語りたと思います。



1. 『支え、治し、支える、あきらめない医療』の提供

当院は神戸市市街地西部の中核病院、急性期総合病院に位置付けられ、地域医療支援病院、紹介受診重点医療機関に認定されています。公的病院として、『市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心こもった医療を提供すること』が基本理念です。地域の高齢化が加速的に進む中、様々な合併症を抱えながら治療を受ける患者さんが増えていきます。当院ではすべての患者さんに対して治療をあきらめず、各診療科、各部門のスタッフがチームとなって、患者さんの健康状態の向上に努め、最適な治療が受けられるように、治療方針決定を支援します。そして治療後の患者さんの変化に寄り添い、地域と連携してできるだけ以前と変わらない安心な日常生活を送っていただけることを目指し、『支え、治し、支える医療』を提供しています。このような医療のサイクルを継続するために必要なのは人材、チーム医療、地域連携です。当院では各診療科医師や地域連携のスタッフの増員を進め、現在医師数は総勢121名、地域医療在宅支援室のスタッフは23名まで充足しました。総合病院ならではの充実したチーム医療、高度で専門的な医療を提供できることが当院の強みです。



2. 地域を守る内科診療体制

当院は消化器内科、呼吸器内科を基軸とし各専門内科（総合内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科）から構成される9つの詳細内科、総勢45名からなる内科スタッフが、それぞれの専門領域で高度な医療を提供するとともに、救急の現場では多くの患者さんを応需し、地域の急性期、救急医療を担っています。

特に消化器内科と呼吸器内科は、地域からの救急や専門的医療の要請に対し常に積極的に応え、『消化器症状、呼吸器症状の患者さんは西市民病院に送れば何とかしてくれる』と、地域の信頼を培ってきました。新型コロナウイルスに対しては総合内科が中心的・指導的役割を果たし、全診療科の医師が分担して多くの入院患者、発熱患者を受け入れ診療し、市民病院としての役割をしっかりと果たせたと思います。内科の各診療科がチームワークよく専門的かつ網羅的にさまざまな疾患に対応できることが当院の強みです。

3. ロボット手術に代表される高度で先進的な外科医療

2015年より手術支援ロボットダヴィンチ Si を導入し、ロボット手術を進めてきました。2022年4月から最新機種のだヴィンチ Xi に更新し、現在では前立腺がん、膀胱がん、腎尿管がん、腎がん（泌尿器科）、胃がん、結腸がん、直腸がん、肝がん、膵がん（消化器外科）、肺がん（呼吸器外科）、子宮筋腫、骨盤性器脱（産婦人科）に対して積極的にロボット手術に取り組んでいます。現在ロボット手術が適応できる主要疾患のほとんどすべてを実施可能なことが、当院の強みです。

4. 職員同士チームワークよく支えあう病院の風土

以前より当院は各診療科、各部署間の垣根が低く、風通しがよい雰囲気だと、医師はじめ病院見学の学生さんや、研修医、メディカルスタッフの方々も口をそろえて言っています。これは形や数字で表しにくいものですが、当院が長年積み上げ培ってきた風土といえるもので、すばらしい長所、売りだと思えます。一朝一夕にできるものではありません。これを守り、さらに良くして、目に見える実績、地域の皆さまからの信頼につなげていくことが院長の務めだと思っています。

今後よりいっそう診療機能を高め、地域の皆さまの期待と要請に最大限お応えできるよう努めてまいりますので、どうかよろしくごお願い申し上げます。





病理検査室をご紹介します

臨床検査技術部 吉田 澄子

今回は、病理組織検査を行う病理検査室を紹介します。

病理検査室では、患者さんから採取した体の一部でプレパラートを作製し、病理医という医師が顕微鏡を用いて観察し診断しています。

対象となる体の一部は、胃カメラなどの内視鏡検査で採取される小さな組織片から、手術で摘出される臓器とさまざまです。

生検は（写真1）、耳かき一杯ほどの小さな検体です。病理組織検査は、良悪性の診断と悪性ならばそのタイプを判断することを目的に行われ、治療方針決定のための重要な情報になります。

手術で得た組織（写真2は大腸がん）では、大きさや転移の有無などが判定され、広がり・深さを表す進行度や再発の可能性の予測を診断しています。

プレパラートの作製には、おもに①切り出し、②薄切、③染色の3つの工程があります。

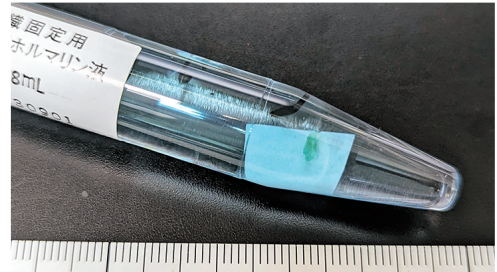


写真1



写真2

① 切り出し

手術で採取された組織など一定以上の大きさの組織は、すべてをプレパラートにすることが困難なので、必要な部分を選び、適切な大きさや形になるように切り取り、カセットに入れます（写真3）。この工程が「切り出し」です。

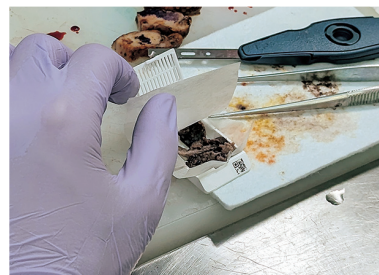


写真3



写真4

内視鏡検査で採取された生検検体は専用のカセットに入れ処理を行います（写真4）。

② 薄切

切り出し後、組織にはパラフィンといわれる^{ろう}蝋を浸透させて適度な硬さを与え、パラフィンに埋めてブロックにします（写真5）。

顕微鏡で観察するには、薄く切って光を透す組織切片にする必要があります。

ブロックを薄くスライスしていく工程は「薄切」といい、ミクロトームという専用の機器を用います（写真6）。

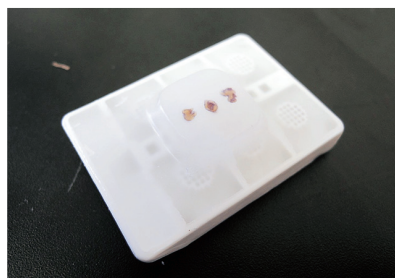


写真5



写真6



③ 染色

顕微鏡で観察しやすいように、色素等を用いて組織切片を可視化するための染色を行います。ヘマトキシリン・エオジン染色（HE 染色・写真7）は病理組織検査での基本的な染色です。

特殊染色や免疫染色は、HE 染色でわかりづらかった特定の物質を染め出す染色です。

特殊染色では化学反応を原理とし、免疫染色では抗原抗体反応という免疫反応を利用しています。

このようにいくつかの工程を経て病理組織診断が行われており、とくにここ数年はがんの治療のための遺伝子検査が増え、病理検査室はこの検査に貢献しています。

がんの発生や進行には、特定の遺伝子の変異が引き金となり起こることがあります。

特定の遺伝子変異の検索には、「コンパニオン診断」といわれる検査を行います。遺伝子変異が確認されると、「分子標的薬」という特定の遺伝子や作り出されるたんぱく質を標的とする薬を使用できます。副作用が軽く治療効果が高いですが、特定の遺伝子変異がある患者さんでないと使えません（画像1）。

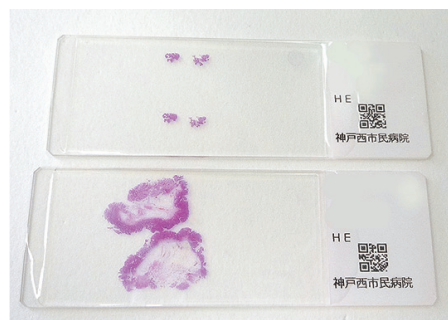
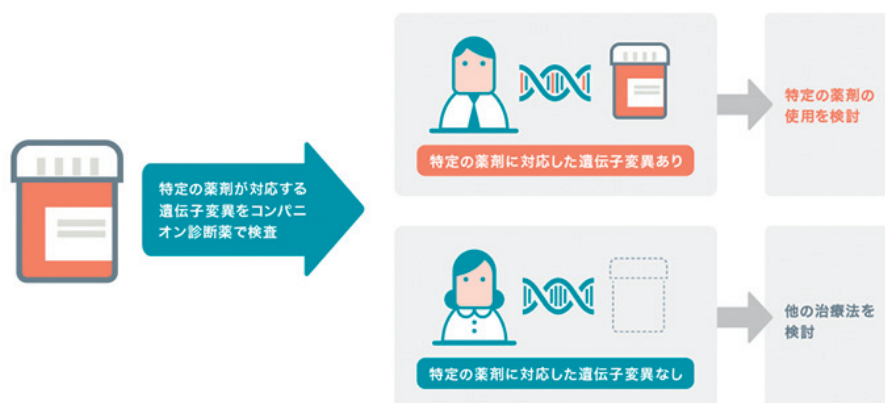


写真7



画像1 出典：中外製薬ホームページ「おしえて がんゲノム医療」

これら検査の多くは、病理組織検査後に行うことができます。スライドガラスの作製過程で作ったブロックからスライドガラスを指定枚数薄切し（写真8）、委託先に提出しています。

その際重要になるのが、スライドガラスに含まれるがん細胞の数や割合です。遺伝子は細胞の核の中にあるので、特定の遺伝子の変異を調べるには、組織切片内のがん細胞の核の割合を把握する必要があります。これは、HE 染色したプレパレートで確認しています（写真9・○の中のがん細胞があります）。

遺伝子検査が増えたことにより、検体処理は今まで以上に注意を払っています。

遺伝子が傷つかないように中性の薬剤を使用したり、薄切時は他の患者さんの組織切片が混入しないよう刃の交換をしたり、ブロックは一定の温度で保管しています。

患者さんにお会いすることが少ない病理検査室職員ですが、縁の下の力持ちとしてがんの治療を支えています。

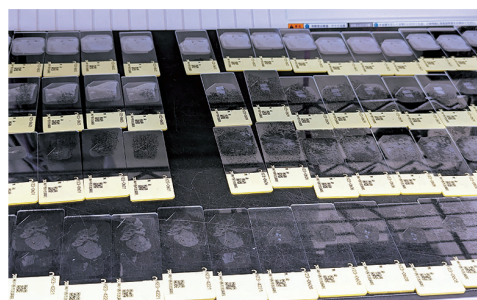


写真8



写真9



会計の待ち時間をゼロに!!

治療のために定期的に通院していると、悩みの種になるのが「病院の待ち時間の長さ」ではないでしょうか。予約しているのに時間どおりではない！会計にどれだけ待たすのか！などご意見をいただいています。当院では、毎年待ち時間調査を実施し、改善につなげています。

待ち時間の原因

- 1 予約外の患者さんが多い
予約外の患者さんが来られると、予約をしている患者さんの診察時間に影響があります。来院予定日に予定が入った場合は、予約変更をお願いします。
- 2 初診時に予約がない
当院では、初診で受診される方には紹介状を持参していただくようお願いしています。かかりつけ医の先生にFAXで紹介状を送っていただくと予約を取ることができます。
- 3 診察予約時間に検査(採血)結果が出ていない
診察前に採血が必要な患者さんは、採血の結果がでるまでに約1時間かかります。予約時間より1時間前に来院していただくか、前日までに採血をしていただくようお願いいたします。
- 4 会計計算に時間がかかる
計算に時間がかかる理由として、当日行った医療行為について誤りがないように1件ずつ確認をする必要があるからです。そこで医療費後払いサービスを導入しました。診察後、会計ファイルを受付に提出し、そのままご帰宅いただけます。かかった医療費は後日お知らせし、お支払いはクレジットカードで安心です。

医療費後払いサービスのご案内

「診察が終わったらすぐ帰りたい…」

医療費を後払いにすることで、会計を待たずにすぐお帰りいただけるサービスです

待たずに ラクへだ



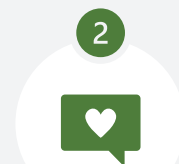
本サービスのご利用には事前登録が必要です。

診察前のご登録で、本日の会計からご利用いただけます。



登録がラク!

左記のQRコードより、診察券番号やお手持ちのクレジットカード情報を登録するだけ！(初回のみ)



通院がラク!

会計待ちがないので、お身体への負担や、付き添う方の待ち時間を軽減します。



支払いがラク!

かかった医療費は後日メールでお知らせします。お支払いはクレジットカードで安心です。

次回のご来院までにQRコードから事前登録をお願いします

※ご登録完了まで、安全のためご自身の接続環境に切り替えてください。



2023
年度

神戸市立医療センター西市民病院 市民公開講座のご案内 (YouTube配信)



このほかにも多数動画配信中です。

「関節リウマチについて」

神戸市立医療センター西市民病院市民公開講座
『関節リウマチについて』



「認知症へのそなえ ～認知症となっても困らないように～」



視聴方法

西市民病院ホームページのYouTubeチャンネルから
ご視聴いただけます。

事前申し込み不要、視聴にかかる費用無料

注意事項

スマートフォンや携帯のご契約の携帯料金プランによっては、通信料が高額になることがあります。
事前に契約内容のご確認をおすすめいたします。
講義の録音、画面録画、スクリーンショット、動画の二次利用などはご遠慮ください。

主催: 神戸市立医療センター西市民病院
お問い合わせ: 地域医療在宅支援室 ☎ 078-576-5251